

令和6年度

学校自己点検・評価報告書

令和7年1月

筑波研究学園専門学校
自己点検・評価委員会

■「学校関係者評価委員会」について

筑波研究学園専門学校は、「工業分野」「商業実務分野」「教育・社会福祉分野」の3つの専門課程の認可を受け、専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな人材を育成し、地域社会の発展と文化の向上に寄与することを目的として運営しております。

平成19年12月に学校教育法が改正され、4年制大学や短期大学と並んで専門学校においても学校評価制度が義務付けられました。本校では、平成18年度に「自己点検・評価委員会規程」を制定し、平成19年度より「自己点検・評価」を実施してきました。

また平成26年度からは文部科学省の「職業実践専門課程の認定」を受けたことを踏まえ、一層「学校運営の適正化」と「教育内容の充実」を図るため、「学校関係者評価委員会」を活用しています。

■令和6年度 学校自己点検・評価について

1. 対象期間 令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校自己点検・評価委員会

○委員長 野口 孝之 筑波研究学園専門学校 学校長
委員 大森 淳子 筑波研究学園専門学校 副校長
水越 武 筑波研究学園専門学校 ITものづくり学科長
齋田 光幸 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長
原 智樹 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長
宮本 晃太 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長
押手 美加 筑波研究学園専門学校 こども未来学科学科長
日下部俊博 筑波研究学園専門学校 総務部 部長
岡田 地余 筑波研究学園専門学校 教務部 副部長
杉山由紀夫 筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 部長
山口 朋彦 筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 次長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法：授業アンケート、教員自己点検・評価、各学科及び部門の自己点検・評価をもとに、自己点検・評価委員会を開催し、学校自己点検・評価を取りまとめています。

3. 評価項目

- | | |
|-------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (7) 学生の受け入れ募集 |
| (2) 学校運営 | (8) 財務 |
| (3) 教育活動 | (9) 法令等の遵守 |
| (4) 学修成果 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (5) 学生支援 | (11) 国際交流 |
| (6) 教育環境 | |

4. 評価項目に対する評価

各項目について、次の4段階を基準とし、点数を0.1刻みで評価しています。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

5. 校訓、教育目標、教育方針

◎経営理念

「開かれた高等教育機関」の実現

◎教育理念

「産学官民」協同による教育

◎校 訓

自 主：自分で考え判断し、自らの意志と責任によって行動する

協 調：相手の立場を尊重し、互いに助け励まし合う

創 造：自らの創意と努力によって、新しい道を切り拓く

◎教育目標

- ・型にはめない教育を実践し、個性を最大限に伸長する
- ・基礎学力と専門技術の調和のある学習を通して、有為な人材を育成する
- ・新たな世界へ挑戦する不屈の精神を涵養する

6. 令和6年度の重点項目

2. 学校運営

- ・組織運営の円滑化

3. 教育活動

- ・キャリア教育の促進
- ・教員等のマンパワーの強化・充実
- ・専門分野におけるDX授業の推進

5. 学生支援

- ・キャリア教育・就職支援の強化

6. 教育環境

- ・学習環境の向上
- ・防災訓練の実施

7. 学生の受け入れ募集

- ・募集の強化

11. 国際交流

- ・留学生に対する支援体制の整備、安心して学習できる環境づくり

1. 教育理念・目標

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|--|-------|-----|
| 1 | 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか | 4.0 | 4.0 |
| 2 | 専門分野における職業教育の特性は明確か | 4.0 | 4.0 |
| 3 | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4.0 | 4.0 |
| 4 | 学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 4.0 | 4.0 |
| 5 | 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3.9 | 3.9 |

【 状況・課題 】

- ・「自主」「協調」「創造」の本校校訓の更なる浸透を図るため、学生自らが学校行事に参加する学友会の発足、令和7年度からのAL型グループ学習^{※1}導入に向けた環境整備（BYOD環境^{※2}構築と90分授業導入準備）を行った。
- ・学友会では、学園祭やスポーツ大会の企画・運営、オープンキャンパスを通じて、学内外の方々と積極的にコミュニケーションを図り、社会人としての主体性、自覚、そして自身の向上を促した。引き続き教育活動の中で、更なる校訓の浸透を図る。
- ・BYOD環境の構築と90分授業の導入について、各学科のモデル授業の選定と学修目標や指導方法の見直しを行うとともに、新しい学習管理システムの活用研修を行った。

【 改善方策 】

- ・令和7年度以降の留学生の増加に際し、留学生についても校訓の浸透を図れるよう教育活動に落とし込んでいく。
- ・令和7年度から導入する90分授業において、AL型のグループ学習を取り入れ、学生の主体的な学びと問題解決能力の育成を目指す。

【 特記事項 】

- ・五箇年計画に基づき、定期的に各部・各学科の進捗及び状況・課題を確認し改善を図っている。
- ・学校や学科の価値を高めるため、今後必要とされる取り組みと広報活動に関する教職員アンケートを行い、課題を整理した。
- ・本校では、実学重視の教育を実践しており、関連機関との教育連携を図り、専門分野の業界や企業等での現場実習を通して学生が実社会に直接触れて学ぶことを大切にしている。
- ・自動車整備業界における人材確保に貢献するため、令和7年度から国際自動車整備工学科を新設する。

※1：AL（Active Learning）：学生が能動的に学び、知識を活用して問題解決能力を養う学習法

※2：学生が自分のデバイス（スマートフォン、タブレット、ノートPC）を学校に持ち込み活用すること。

2. 学校運営

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|--|-------|-----|
| 1 | 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4.0 | 4.0 |
| 2 | 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4.0 | 4.0 |
| 3 | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3.9 | 3.9 |
| 4 | 人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4.0 | 4.0 |
| 5 | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 3.8 | 3.8 |
| 6 | 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3.8 | 3.8 |
| 7 | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 3.9 | 3.9 |
| 8 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3.8 | 3.8 |

【 状況・課題 】

- ・求人閲覧システム及び学生連絡ツールを新しく導入した。導入時期が遅れたため、旧システムと併用する形で運用した。
- ・学生連絡ツールを新システムに変更したことで既読率が向上し、連絡がスムーズに行えるようになった。
- ・生成AIに関する利活用指針を定め、教職員全員が活用できるよう環境を整備した。

【 改善方策 】

- ・求人情報の収集については一元化が完了したが、内定者情報を含めた収集後の管理については、令和7年度より手法を変更し、更なる業務効率化を図っていく。
- ・令和7年度からのBYOD環境を活用するため、学科やクラス単位の連絡、授業課題等に紐づく連絡ツールに、新しい学習管理システムを活用する。
- ・生成AIを活用した業務効率化を促進する。

【 特記事項 】

- ・「経営五カ年計画」に沿った事業計画が毎年度策定されており、またその進捗管理を行っている。

3. 教育活動

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|---|-------|-----|
| 1 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 3.8 | 3.9 |
| 2 | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3.7 | 3.8 |
| 3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 3.8 | 3.9 |
| 4 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 3.8 | 3.9 |
| 5 | 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 3.8 | 3.8 |
| 6 | 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 3.8 | 3.8 |
| 7 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 3.7 | 3.8 |
| 8 | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 3.8 | 3.9 |
| 9 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4.0 | 4.0 |
| 10 | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 3.9 | 3.9 |
| 11 | 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 3.8 | 3.8 |
| 12 | 業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 3.8 | 3.8 |
| 13 | 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか | 3.6 | 3.8 |
| 14 | 教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか | 3.8 | 3.8 |

【 状況・課題 】

- ・在校生で組織する学友会を設置し、学園祭やスポーツ大会の企画・運営を主体的に行った。また、学外の地元行事にも参加し、外部の方々とのコミュニケーション等の経験を通じて、社会人としての自覚と自信を育成した。
- ・就職率100%と早期就職内定の実現のため、学生が自らの将来を考え行動できるよう、各学科ともキャリア教育の充実を図った。
- ・より深い学習やグループ活動、実践的な演習の充実を図ることを目的に、BYOD環境の構築と90分授業の導入準備を行なった。
- ・業界ニーズや高校生・在校生が求める学びに沿って、授業内容をより実践的なものへ見直した。
- ・学科や学校の課題分析が十分に行えるよう授業アンケートの内容を見直し、アンケート結果から課題を明確にし、改善を図った。
- ・学生の主体的な学習や協働的な学びをテーマにした研究授業を行った。
- ・企業訪問を積極的に行い、連携授業の拡大や就職先の開拓を行った。
- ・DX授業について、実践的な演習を授業に落とし込み、先端的な技術への理解を深めた。
- ・学生の生成AIの使用についてガイドラインを定めた。
- ・学科別研修では業界団体等と連携した研修会を実施した。
- ・指導力育成や能力開発を目的とするeラーニングによる自己研修が行われており、一般社団法人アクティブ・ラーニング協会より「ACTIVE TEACHER 輩出校」として3年連続で表彰された。
- ・教員、職員ともに、学外研修に積極的に参加し、資質向上に努めた。

【 改善方策 】

- ・ 学友会の更なる活動を推進する。
- ・ 教育課程編成委員会や連携企業等からの意見を踏まえ、さらなる授業内容の充実を目指す。
- ・ 授業アンケートによる、学科や学校の課題分析が即座に行える集計方法を構築する。
- ・ AL 型グループ学習を取り入れ、実践的なキャリア教育の充実と、コミュニケーション能力の育成を促進する。
- ・ 訪問先企業の事業や業界理解につながる教員研修や企業訪問の充実を図る。
- ・ 専門分野における DX 授業を推進し、生成 AI を関連教科に取り入れるなど授業の充実を図る。
- ・ 管理者研修については、それぞれの課題に沿った学外研修の参加も検討し、更なる資質向上を図る。
- ・ 主要資格の合格率向上を図る。
- ・ 令和 8 年度の単位制導入のための準備を進める。

4. 学修成果

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|--|-------|-----|
| 1 | 就職率の向上が図られているか | 3.9 | 3.9 |
| 2 | 資格取得率の向上が図られているか | 3.7 | 3.7 |
| 3 | 退学率の低減が図られているか | 3.6 | 3.6 |
| 4 | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3.7 | 3.7 |
| 5 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 3.6 | 3.6 |

【 状況・課題 】

- ・ 2024年3月末の就職率は、99.6%である。
- ・ 習熟度別授業等で、学生個々の状況・課題克服につながる指導を継続して行った。資格取得率は改善傾向にあるが、より一層の取り組みが望まれる。

【 改善方策 】

- ・ 就職率100%の維持と早期就職内定の実現のため、学生が自らの将来を考え行動できるよう、各学科とも更なるキャリア教育の充実を図る。
- ・ 課題や小テストにデジタルツールを導入し、習熟度の即時把握と習熟度に応じた指導などを行うことで学習の効率化を図る。

【 特記事項 】

- ・ 退学率について、全国平均を下回ってはいるが、退学者を減少させていく必要があり、要指導学生の早期発見・早期対応を図る。

5. 学生支援

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|---|-------|-----|
| 1 | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3.9 | 3.9 |
| 2 | 学生相談に関する体制は整備されているか | 3.7 | 3.7 |
| 3 | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 3.9 | 3.9 |
| 4 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 3.6 | 3.6 |
| 5 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3.6 | 3.7 |
| 6 | 学生の生活環境への支援は行われているか | 3.6 | 3.7 |
| 7 | 保護者と適切に連携しているか | 3.8 | 3.8 |
| 8 | 卒業生への支援体制はあるか | 3.7 | 3.7 |
| 9 | 社会のニーズ（社会人受入）を踏まえた教育環境が整備されているか | 3.7 | 3.7 |
| 10 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3.7 | 3.7 |

【 状況・課題 】

- ・キャリア支援センターにキャリア相談窓口を設け、キャリアコンサルタントへ直接相談できる体制を整えた。
- ・遠方から転居してくる学生に対する金銭的な支援や、一人暮らしの学生への食料支援、バーベキュー大会やカレーイベントなどによる学生同士の交流を図った。
- ・部活動（2団体）に対して支援を行った。
- ・留学生の入学者が増加し、日本語教育や授業の補講等の強化を図った。
- ・保護者会の視察研修旅行、保護者会の学園祭への参加を通して、保護者と教職員の交流を図った。
- ・建築士を目指した高専連携講座を開催した。
- ・IT分野における工業・技術研究に関する高校出前授業を行った。

【 特記事項 】

- ・保健室の設置、学校医（かかりつけ医）の選任、学生健康診断の実施等、専門学校設置基準に沿って学生の健康管理を行っている。

6. 教育環境

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|--|-------|-----|
| 1 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3.7 | 3.7 |
| 2 | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3.8 | 3.8 |
| 3 | 防災に対する体制は整備されているか | 3.8 | 3.9 |

【 状況・課題 】

- ・大規模修繕計画に基づき、教育設備（机・イスの入替、プロジェクターやパソコンの更新等）を行った。
- ・避難訓練及び学生連絡ツールを用いた安否確認訓練を実施した。

【 特記事項 】

- ・「経営五ヵ年計画」に基づき、学校施設の大規模修繕と同時に環境整備を進めている。

7. 学生の受け入れ募集

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|-----------------------------|-------|-----|
| 1 | 学生募集活動は、適正に行われているか | 4.0 | 4.0 |
| 2 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3.7 | 3.6 |
| 3 | 学納金は妥当なものとなっているか | 4.0 | 3.8 |

【 状況・課題 】

- ・ホームページを大幅にリニューアルしたが、更新時期に遅れが出た。
- ・学納金については、昨今の物価上昇や国内の18歳人口減少等を考慮し、適宜見直しを考える必要がある。

【 改善方策 】

- ・教育活動における本校の価値や魅力を明確に発信する。
- ・入学希望者（高校生等）の視点や動向に合わせ、戦略的に広報活動を展開する。

8. 財務

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|--------------------------|-------|-----|
| 1 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4.0 | 3.8 |
| 2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4.0 | 4.0 |
| 3 | 財務について会計監査が適正に行われているか | 3.8 | 3.9 |
| 4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 4.0 | 4.0 |

【 特記事項 】

- ・適切な予算を策定し、予算管理を進めながら実績値との差異を分析するなど、月次での管理を実施している。
- ・入学者が減少しないよう、募集活動（戦略）を強化し、今後の安定的な財政基盤を築いていく。

9. 法令等の遵守

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|-------------------------------|-------|-----|
| 1 | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4.0 | 4.0 |
| 2 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4.0 | 4.0 |
| 3 | 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 3.8 | 3.9 |
| 4 | 自己評価結果を公開しているか | 4.0 | 4.0 |

【 状況・課題 】

- ・全部門・全学科で、自己評価の実施と問題点の改善に努めている。

【 特記事項 】

- ・法令及び個人情報管理規程に則り、学内情報の管理を徹底している。

10. 社会貢献・地域貢献

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|---------------------------------|-------|-----|
| 1 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3.9 | 3.9 |
| 2 | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3.6 | 3.7 |
| 3 | 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか | 4.0 | 4.0 |

【 状況・課題 】

- ・校友会の活動として、地域行事に積極的に参加し、地域の方々が楽しめるイベントを実施した。

1 1. 国際交流

| No | 設問 | R5 評価 | 評価点 |
|----|---------------------------------|-------|-----|
| 1 | 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか | — | |
| 2 | 受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか | — | 4.0 |
| 3 | 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | — | |
| 4 | 学内で適切な体制が整備されているか | — | 3.8 |

【 状況・課題 】

- ・業界と留学生のニーズを受け、令和7年度より国際自動車整備工学科を新設する。
- ・自動車整備工学科における外国人留学生キャリア形成支援プログラムの認定や留学生対象の就活セミナーの開催など、キャリア支援体制を整えた。
- ・学校生活を支援するため、留学生ガイドブックを作成した。

【 改善方策 】

- ・令和7年度国際自動車整備工学科の新設に伴い、受け入れ体制を更に充実させる。